白石町長コラム Vol.2

「不易流行」

～よき伝統を守りながら(不易)
進歩に目を閉ざさないこと(流行)によって、「理想」を創造する～

『老いも若きも元気なまち』

江府町には元気ではつらつとした高齢者が大勢おられます。8月26日に、人生の大先輩でもある「明徳学園」の学園生の皆さんの前で講演させていただく機会を得ました。「私の目指す町」という演題で、町政を運営するに当たってのビジョンについて約50名の方に聞いていただきました。質問も数名の方からいただきました。鋭い質問もたくさんありました。できれば女性の方からの質問も受けたかったのですが、それは次回の楽しみにとっておきます。

9月になって敬老記念品をお届けに伺いました。95歳以上の方が30名以上おられ、最高齢は108歳です。「茶寿」というそうです。お茶の字が「十」が二つと「八十八」に分解され、合わせると108になるからだそうです。また、町内にある介護老人保健施設「あやめ」や特別養護老人ホーム「江美の郷」の敬老会にもご挨拶に伺うことができました。江府町は昭和51年から「江府町老人憲章」を定めている高齢者を大切にする町です。いつまでもお元気にお過ごしいただきたいと思います。

スポーツの秋。台風の進路が心配な9月でしたが、中学校秋季体育大会は晴天の下開催されました。組体操はキビキビした動きで、全校生徒で取り組みます。女子も「塔」を作るのを見てビックリしました。また、入退場門での「お願いします！」「ありがとうございました！」の挨拶にも感動しました。江府町の未来を担う子どもたちの元気な姿を見ることができて、とても嬉しかったです。

最後に、9月議会では田中議員の遺影に見守られ、5人の議員の一般質問にお答えしました。私への初めての質問ということもあり、多くの議員さんと議論を深めることができましたが、もっと大勢の町民さんに傍聴していただけるよう、工夫してみたいと思います。

「3000人の楽しい町」プロジェクトチーム報告

～本格スタート！まず"聴く"ことから始めます～

「3000人の楽しい町」プロジェクト。20～30歳代の役場職員で名乗りを上げた5人の志士たちに、リーダーとして生田が加わったチームで10月3日にスタートしました。

プロジェクトの役割は、楽しい町に支障となるさまざまな課題を、「住民目線」「当事者意識」「挑戦」の三つを念頭に自分の業務を超えて考えるよろずや集団。そして時には町長提案のアイデアを形にできないかチャレンジ。このコラムの半分を使って町民のみなさんに活動の報告をすることも使命の一つです。

先日、本格的スタートを前に基本ルールや心意気を語り合いました（詳細はホームページで公開しています）。その中の一つに、公開プロジェクト会議を集落公民館で開き、町民のみなさんにも自由に参加していただこうという取り組みがあります。チームの役割を果たし、みんなの「楽しい」を形にするためにまずは一人でも多くの町民のみなさんの声を「聴く」という思いを形にしたものです。そしてそこから、アイデアをもらったり、一緒に何かを考えたり、時には実際に行動したりして仲間を増やす…。このプロジェクトの一区切りである3月に100人の参加をいただくことを目標に「まじめ楽しい」会を企画したいと考えています。防災無線で開催日や場所、テーマをお知らせしますので、みなさんぜひぜひお出かけください。

「3000人の楽しい町」。3000人は一つの目標であり、何かの施策によって実現できるかと言えば簡単なことではないと思います。でも「楽しい」はちょっとした心がけ一つ、もしかしたら突拍子もない思いつきからでも、そして日々の暮らしの中にも見つけることができるはずです。そんな「楽しい」を町中につなげることを決意して、プロジェクトチーム、元気いっぱい走ります!!

（プロジェクトリーダー　生田志保）